

# にいがた 畜産協会たより

公益社団法人  
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15  
全農にいがた第2ビル内  
TEL. 025-234-6781  
～6783



## 特集 佐渡の和牛増頭



佐渡農業協同組合「キャトル・ブリーディング・ステーション」

### 目次

- ◆ 和牛産地の挑戦  
～佐渡島内で広がる増頭への取り組み～ (2)
- ◆ 畜産クラスター事業  
～進捗状況と機械導入事例の紹介～ (4)
- ◆ 新潟県で初めて!!  
～「めおとファーム」が  
農場HACCP認証農場に!～ (5)
- ◆ 平成29年度定時総会を開催 (6)
- ◆ にいがた和牛推進協議会総会開催 (6)
- ◆ 声のコーナー (7)  
「酪農に対する考え」  
酪農経営：五泉市 酒井 彦卓  
「命を頂く」  
養豚経営：新潟市 長谷川大樹
- ◆ 畜産安心ブランド生産農場だより (8)  
柏崎市：江部 毅
- ◆ 県民公開講座の案内 (8)
- ◆ 第19回協同組合まつりに参加します (8)

# 和牛産地の挑戦

## ～佐渡島内で広がる増頭への取り組み～

昭和50年代当初、佐渡島内で4,000頭を超えていた和牛も現在は380頭ほどに減少しています。

今、佐渡では和牛の繁殖基盤拡大に向け、佐渡農業協同組合が大型和牛繁殖支援施設（キャトル・ブリーディング・ステーション＝CBS）の整備を進めているほか、定年退職後に新たに牛を飼い始めた方や後継者の就農を機に規模拡大した方など、島内各地で和牛の増頭に力を入れています。

特集では、佐渡を和牛一大生産地へと復活させるべく頑張っている方々をご紹介します。



CBSの一部・繁殖牛舎

### CBS一部完成で和牛増頭へ始動

佐渡農業協同組合

#### 【特徴】

- 市場上場頭数の減少を受け、和牛生産基盤強化を推進
- 国の補助事業を活用し、4ヘクタールの広大な敷地に全7棟の牛舎を整備  
(平成30年3月竣工予定、現在は2棟が完成)
- 広い飼養スペース、高い天井で牛のストレスを軽減

#### 【繁殖牛増頭計画】 目標250頭

現在	H29年	H30年	H31年
3頭	95頭	220頭	250頭

#### 【今後の意気込み】

佐渡の和牛振興と農家の期待に応えるため、頭数を増やさなければいけないという使命感を持って増頭に取り組むたい。

(佐渡農業協同組合 CBS担当 菊池敏さん)



牛を管理する皆さん（中央が菊池さん）

### 定年退職後に、和牛繁殖を開始

中川 邦昭さん（60歳）

#### 【特徴】

- 平成29年4月から空き牛舎を借用、粗飼料は河川敷や休養地の野草等を利用
- 地域の生産基盤強化のため、開業獣医師として診療業務も実施

#### 【繁殖牛増頭計画】 目標10頭

現在	H29年	H30年
5頭	10頭	10頭

#### 【今後の意気込み】

地域全体の分娩間隔の短縮、事故率低減を図るとともに、新規の仲間を増やし「和牛の島佐渡」を実現したい。



仲間づくりに意欲的な中川さん

## 後継者として就農、規模拡大へ

野崎 健司さん (24歳)

### 【特徴】

- 母が2頭の牛を飼養、牛に興味があったため、牛舎を新築して就農
- 明るく清潔な牛舎のため、牛のストレス軽減につながるるとともに、1頭1頭の体調変化や発情発見が容易

### 【繁殖牛増頭計画】目標10頭

現在	H29年	H30年	H31年	H32年	H33年
5頭	6頭	7頭	8頭	9頭	10頭

### 【今後の意気込み】

同年代の牛飼いが少ないので寂しいけれど、仲間が増えるように牛の楽しさを伝えていきたい。



健司さん (中央) とご両親

## 娘の就農に向け、規模拡大中

渡部 晃さん (58歳)

### 【特徴】

- 今年11月に娘が就農予定、その基盤として高能力牛を自家保留及び市場から導入済
- 現在、娘はJAの肉用牛センターに勤務、和牛飼養の技術と知識を習得中

### 【繁殖牛増頭計画】目標20頭

現在	H29年	H30年	H31年	H32年	H33年
9頭	14頭	16頭	17頭	18頭	20頭

### 【今後の意気込み】

幸い後継者ができ、このタイミングしかないと思いい規模を拡大しはじめた。意欲的に増頭に取り組んでいきたい。



渡部さんご一家 (後継者は左)

## JA退職後、新築ハウス牛舎で規模拡大

岡崎 敦さん (55歳)

### 【特徴】

- 元々JAに勤務しながら5頭ほどの繁殖牛を飼養、今年2月のJA退職を機にハウス牛舎を新築し、規模拡大中
- 連動スタンションの設置により自動ロック、ロック解除がワンタッチで可能 ⇒ 繁殖管理、個体管理が容易かつスピードアップ
- 経費削減と広いスペース確保のために、市の放牧場を活用

### 【繁殖牛増頭計画】目標20頭

現在	H29年	H30年
14頭	20頭	20頭

### 【今後の意気込み】

のんびりと楽しみながら繁殖経営を長く続けて行きたい。



自慢の連動スタンションと岡崎さん

# 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業(通称:畜産クラスター事業) ～ 進捗状況と機械導入事例の紹介 ～

## 推進状況

当協会は、畜産クラスター計画に位置付けられた中心的な畜産経営体が収益性の向上に必要な機械装置の導入申請等を行う際の窓口業務及び新潟県畜産クラスター協議会の事務局運営を行っています。

平成28年度は参加申請書を提出した23経営体全てが承認を受け、補助金ベースで166,357千円の実績となりました。承認された機械装置は、以下のとおりです。

機械装置の区分	数量
堆肥調整散布関係機械装置（マニュアルスプレッダー等）	18
飼料収穫・調整用機械装置（ラッピングマシン等）	12
飼料給与関係機械装置（自動給餌機等）	7
飼料用米調整機械装置（飼料粉碎機等）	2
飼料調整機械装置（フォークリフト）	1
家畜飼養管理機械装置（妊娠鑑定機）	1
衛生管理高度化機械装置（高圧洗浄機）	1
省エネ・電力安定供給のための機械装置（自家発電機）	1
その他（トラクター）※ 要知事特認	1
計	44

平成29年度第2回目の要望調査を7月10日（月）から全農、県酪連及び配合飼料価格安定基金協会を通じて実施しています。3団体からクラスター協議会への参加要望書の提出期限は8月4日（金）です。

## 機械導入事例の紹介

本事業では、マニュアルスプレッダーやラッピングマシンなど、定価が数百万円するような高価な機械導入に活用される傾向がありますが、比較的安価な機械導入にも活用できますので、収益性の向上につながる機械の導入事例を2件ご紹介します。

### 1 飼料粉碎機（下越地域：養豚経営）

#### 【導入目的】

飼料用米の活用によるコスト低減

#### 【導入価格及び補助金】

価格216,000円（税込）、うち補助金100,000円

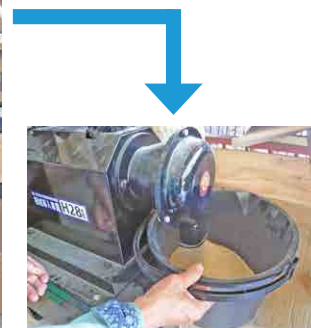
#### 【導入効果、経営者の声】

自家保有古米を利用しているのでコストが安い。試算では飼料費の約10%のコスト低減となるが、年間を通じた効果が見えるのはまだ先になる。

飼料用米を混合した飼料は、嗜好性良好で子豚の食い込みが良く、健康的に発育している。



飼料粉碎機



粉碎した飼料用米

### 2 妊娠鑑定機（中越地域：養豚経営）

#### 【導入目的】

超音波画像診断機での妊娠鑑定の実施による分娩回転率の向上

#### 【導入価格及び補助金】

価格642,600円（税込）、うち補助金297,500円

#### 【導入効果、経営者の声】

導入後、間もないので、回転率向上はまだ確認できないが、受胎率は確実に向上している。

自農場に妊娠鑑定機があれば、いつでも気になった時に気軽に使うことができる。画像の映りが良く確認がしやすいので、導入して良かったと感じている。



妊娠鑑定作業

# 新潟県で初めて！！

## ～「めおとファーム」が農場HACCP認証農場に！～

### 農場HACCP認証農場第91号に認証される

平成29年3月30日の農場HACCP認証協議会の認証審査会(事務局：公益社団法人中央畜産会)において、「めおとファーム」が新潟県で初の認証農場となりましたので、その取組状況について紹介します。

### 農場HACCP認証農場への取組きっかけ

平成25年に将来的な規模拡大と6次産業化への参入のために、農場HACCPを構築することでより高度な衛生管理を行いたいとの経営者の強い意向から、県内の酪農家では初となる取組を開始しました。

### 取組農場の概要

新発田市で乳用牛110頭を齋藤栄毅さん、華子さんの経営者夫妻とその父母の4人で管理する家族経営の酪農家です。栄毅さんはチームミルクファクトリーの主宰者として、若手酪農家の勉強会、小学校等での食育活動としての子牛のふれあい並びにバター作り体験、メディア等を活用したPR活動、地域の酪農の発展と消費者交流に日々尽力しています。

また、安全安心な生乳生産への意識は非常に高く、体細胞数は過去5年間の平均が8万個/mlであり、平成25年に当協会から畜産安心ブランド生産農場のクリーンミルク生産農場に認定されました。

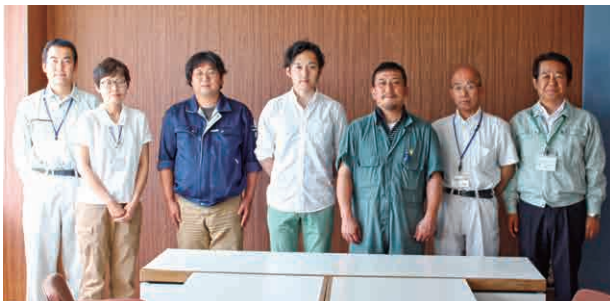
### 構築に向けた取組状況

平成25年11月、栄毅さんをHACCPチームリーダーとし、華子さん、管理獣医師、農業普及指導センター、家畜保健衛生所、JA、飼料メーカー、当協会の8名で取組を開始しました。

平成25年度4回、26年度6回、27年度6回、28年度9回の計25回のチーム検討会を重ね、1回当たり約2時間、認証基準の第1章の経営方針から第7章に至るまでの膨大な書類の作成に専念しました。

### 農場HACCP推進農場の指定

平成26年12月25日付けで認証農場の前の段階である農場HACCP推進農場に指定されました。



HACCPチームメンバー

### 農場HACCP認証農場の認証

平成29年3月15日に公益社団法人中央畜産会から農場HACCP主任審査員及び審査員の2名を迎え、現地審査を受審しました。午前9時から緊張の経営者インタビューに始まり、懸念事項に対するリーダーの質疑応答、午後からは牛舎を訪問し、現地でのシステムの稼働状況調査が行われ、3月30日の認証審査会で第91号に認証されました。

### 成果と課題

認証を取得したことで以下の成果が得られました。  
①衛生管理基準のさらなる遵守の徹底、②農場作業マニュアルの完備、③疾病の減少による生産性の向上、④農場と関係機関とのコミュニケーション充実、⑤6次産業化へ取組むきっかけ等です。

一方、課題として、①日々の衛生管理基準遵守への意欲の維持が困難な時がある、②認証農場継続による審査料負担等が確認されました。

現在、県内で3農場が認証に向けて取組中であり、今後、取組農場が増えるものと期待されます。

農場HACCP認証制度に興味のある方は、是非、当協会までご連絡ください。

### 東京オリンピック・パラリンピックへ向けた動き

一般財団法人日本GAP協会から、今後の海外輸出や2020年の東京オリンピック・パラリンピックへの食材調達も視野に入れた「JGAP家畜・畜産物」の基準書が平成29年3月31日に公表されました。基準書によると、農場HACCP認証制度と十分な調整と連携を図ることとしており、具体的には農場HACCP認証取得農場に対しては環境保全、労働安全などについての差分審査を行い、食品安全や家畜衛生に関する審査が重複しないよう配慮するとしています。



齋藤栄毅さんと華子さん

## 平成29年度定時総会を開催

平成29年度定時総会を平成29年6月26日に新潟市西区の全国農業協同組合連合会新潟県本部ビルで開催しました。

内容は以下のとおりです。

### 1 議事の経過

#### ● 出席会員数

正会員63名中、本人出席20名、書面出席43名の全員出席により、平成29年度定時総会が成立。

#### ● 会長挨拶

出席会員と来賓に謝意。米国との自由貿易協定（FTA）やEUとの経済連携協定（EPA）等の世界情勢や国内の畜産情勢について述べた。県内の畜産について、国の畜産クラスター事業を活用したJA佐渡で建設されている「キャトル ブリーディング ステーション」を紹介した。上程する各議案に対し慎重審議をお願いし挨拶とした。

#### ● 新潟県農林水産部長祝辞

当協会が新潟県の畜産振興に大きく貢献していることに謝意を述べ、当協会と会員の健勝を祈念して祝辞とした。

#### ● 議事録署名人の選任（2名）

- ・（一社）新潟県配合飼料価格安定基金協会  
常務理事 勝海 喜一 氏
- ・越後中央農業協同組合  
経営管理委員会会長 高橋 七郎 氏

#### ● 提出議案

- 第1号議案 平成28年度事業報告及び収支決算報告について
  - 第2号議案 理事の選任について
  - 第3号議案 平成29年度会費について
  - 第4号議案 総会運営規則の一部改正について
  - 第5号議案 役員報酬等費用に関する規程の一部改正について
  - 第6号議案 役員報酬の決定について
- 附帯決議

#### ● 報告事項

### 2 結果の概要

- (1) 第1号議案「平成28年度事業報告及び収支決算報告について」  
公益目的事業とその他事業の実施状況及び決算の概要について説明した。
- (2) 第2号議案「理事の選任について」  
会員から推薦のあった理事候補者2名が選任された。

### 【新任役員】

役名	氏名	所属
理事	荻野 博明	新潟県農林水産部畜産課長
理事	石田 秀史	公益社団法人新潟県獣医師会副会長理事

- (3) 第3号議案「平成29年度会費について」  
平成29年度会費が承認された。  
会員別の会費額は平成28年度と同額とする。
- (4) 第4号議案「総会運営規則の一部改正について」  
役員を選任に当たり、候補者ごとに採決を行うこととしているが、候補者数が定数以内である時は、総会を円滑に運営するため一括して採決することができることとした。
- (5) 第5号議案「役員報酬等費用に関する規程の一部改正について」  
財政健全化により、平成24年度から常勤役員の賞与の3分の1を削減してきたが、平成27年度に財政健全化計画を1年前倒しで黒字に転換し、今後においても引き続き安定的な法人運営が見込まれることから元の規定に戻すこととした。
- (6) 第6号議案「役員報酬の決定について」  
定款第25条の規定に基づき、役員報酬等を決定した。
- (7) 附帯決議  
本総会中の軽微な事項の修正等を会長に一任。
- (8) 報告事項  
平成29年度事業計画及び収支予算並びに資金調達及び設備投資の見込みについて説明。

各議案とも出席者全員の挙手と書面による全員の賛成を確認。

## にいがた和牛推進協議会 総会開催

にいがた和牛推進協議会（会長 米山隆一知事）は、5月30日に新潟市西区の全国農業協同組合連合会新潟県本部ビルにおいて総会を開催しました。

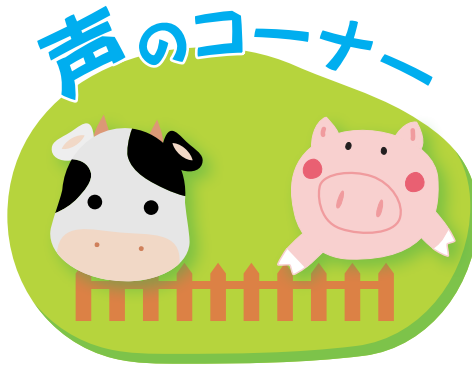
提出された収支決算、収支予算等5議案はすべて原案どおり承認され、役員改選では次のとおり現役員全員が再選されました。

役職	氏名	所属
副会長	五十嵐正美	全農新潟県本部県本部長
	高野 修	(株)タカノ代表取締役
監事	萬羽 博文	新潟県家畜商協同組合理事長
	五十嵐大光	JAにいがた南蒲常務理事



酪農経営

五泉市柄沢  
酒井 彦卓



養豚経営

新潟市西蒲区  
川作ファーム豚従業員  
長谷川大樹



## 『酪農に対する考え』

私は北海道の酪農学園大学を卒業してすぐに家に入りました。今年で7年が経ちました。小さい頃から家の仕事を継ぐものだと思っており、高校、大学と何の抵抗もなく農業について勉強をしてきました。就農する前からも家の手伝いをしていましたので、少しくらいは仕事が出来ると思っていたのですが、いざ就農をしてみても親の大変さに気づかされました。

体調が悪くても作業を休むことができなかつたり、注意をはらっていても牛が乳房炎になったり、ロープの結び方、使い方も知らず、父親に迷惑をかける毎日でした。また、周辺に知っている農家も若い酪農家もいませんでした。

そんな時に、普及センターの方から誘われて県内の若手農家が集まる4Hクラブに入りました。最初のうちは飲み会に行っている感じでしたが、食育活動や農業祭等のイベント行事に参加するようになって、主体的に農業に取り組んでいる4Hクラブの先輩を見て、だんだんと自分がこれからどのように農業、酪農をしていこうか考えるようになりました。

その後、酪農研修会や酪農同志会に参加して、いろんな人と話す機会が増え、物事に対する考え方が前向きになりました。中でも雇用についての話になることがあり、我が家にも今後つながることだと思いました（今は私と両親の3人で仕事をしています）。両親は年齢的にもこの先、何年一緒に仕事ができるのかわかりません。今後、自分一人で作業していける規模でもありませんので考えていきたいです。その他にも施設等が古くなってきているので新しくしていこうと思っています。

これから20年、30年先まで酪農を続けていくために課題はたくさんありますが、両親が築いてきた経営をもっと安定した経営にできるように1つ1つ目標をクリアするため知識や経験を積んでいきたいと思っています。

## 『命を頂く』

私は子供の頃から動物が大好きでした。養豚とは無縁ではあったものの、動物が好きという縁で現在の会社に就職させて頂き現在9年目になりますが、豚について知れば知るほど分からないことだらけで日々勉強しています。初めて産まれたばかりの子豚を見た時は自分がとろけるのではないかと思うくらい可愛かった事を今でも忘れません。

よく豚などは産業動物という言い方をします。豚を育てて出荷して肉とする事で自分達のお給料となります。ペットとは違い、可愛がっているだけではやっていけません。時には生産性を優先して求めなければいけない時もあります。だからこそ私達は愛情を持って豚を育てています。自分の所属する会社を含め、養豚業界やそれ以外の生き物を扱う職業の方はみんな愛情を注いで育てていると思います。

ある時、会社で定期的に行っている勉強会で若い従業員が命について考え、今一度立ち止まる時間を作ってくれました。豚は人間の都合で産まされて、人間の都合で出荷されていきます。その上に私たちの生活が成り立っています。豚にとって何が幸せかは正直今でもわかりません。ただ、産まれてくれたからには出荷までに至る間、愛情を注いで使命を全うさせてあげたいと思っています。中には出荷までいけない子もいます。その子が産まれてくれた意味を考え、次に活かさなければその子が産まれてくれた意味が無くなってしまいます。どのように意味を持ってあげるかは私達次第です。だから豚肉を食べた方に「おいしかった」と言ってもらえる事は私の心の力になります。また、この子達に感謝を忘れないために会社にある慰霊碑に私は毎日手を合わせ自分への戒めにしています。

私達は生産者であると同時に消費者でもあります。命を頂いているという想いをしっかり持ち、常に感謝しておいしく頂きたいとこの仕事に就き更に強く思うようになりました。生産者としての想いが食べて頂く方々にしっかりと届いてくれると嬉しいです。

## 畜産安心ブランド生産農場だより

柏崎市：江部 毅

当牧場がある柏崎市は酪農家が減少し、今では4戸の農家があるだけになりました。牧場では現在、成牛40頭に加えて、育成牛10頭の自家育成を行い、外部導入を行わない経営をしています。牛乳は良寛牛乳に出荷しており、平成28年12月にクリーンミルク生産農場の認定を受けました。

牧場は、民家から離れた山間地にあり、自然に恵まれたとても良い環境ではないでしょうか。堆肥は柏崎農協の堆肥センターに持ち込み、もみ殻と混ぜて完熟堆肥を製造し、田んぼに散布したり、または農家に販売したりして環境に配慮した循環型農業を行っています。

外部導入を行わないために当牧場では、家畜保健衛生所の協力を得て検査を行い、牛白血病クリーン牧場です。これからも伝染病など疾病対策には十分に注意して関係機関の皆様と連携して、衛生管理には注意していきたいと思えます。

畜産安心ブランド生産農場には、これからも生産者として消費者の皆さんに安心して牛乳を飲んでもらいたい、生産者として責任を感じて仕事をしなくてはいけないとの思いで申請をあげました。今後は健康な牛を育て、安心な牛乳を消費者の皆様にお届けすることを心がけていきたいと思えます。



江部さんと牛たち

## 県民公開講座の案内

「畜産物と健康」に関する正しい情報を消費者の皆様提供することにより、畜産や畜産物に対する理解の増進を図ることを目的として、県民公開講座を開催します。

【日時】平成29年9月27日（水）13：30～

【場所】新潟市中央区

「新潟ユニゾンプラザ」

【講師】新開 省二 先生

（東京都健康長寿医療センター研究所 副所長）

【演題】健康長寿の疫学研究からのエビデンス

～日本人はもっと畜産食品を取ってよい！～

- 申込方法等については、後日、当協会のホームページに掲載します。



昨年度の県民公開講座の様子

## 第19回協同組合まつりに参加します

当協会は、10年ぶりに協同組合まつりに参加します。「魅力・元気いっぱい！！新潟の“ちくさん”」をテーマとして、様々なイベントを企画しておりますので、ぜひご来場ください。

【日時】平成29年10月22日（日）9：30～

【場所】新潟市中央区「新潟市産業振興センター」

【企画案】畜産安心ブランド生産農場紹介

畜産女性の6次産業化商品の試食

にいがた和牛の試食、アンケートなど

- 詳細は、後日、当協会のホームページに掲載します。

## 編集後記



今年の夏は西日本を中心に「スーパー猛暑日」が多くなるとの見通しだそうです。スーパー猛暑日？何ですかそれは？ということで調べてみると、「主に気温が37℃を超える状態を指す言葉」とあります。人間の体温を上回る気温になるとは、熱中症対策としてこまめな水分補給が重要になりそうですね。

暑さを感じるのは人間も家畜も一緒です。暑熱は生産効率低下や事故発生の原因になりますので、家畜が快適かつ健康的に過ごせるよう暑熱対策をしっかりと実施しましょう！！  
(谷川 記)